

提言2

若年層への啓発として 「出前授業」を積極的に実施しよう

家庭洗濯およびアイロン掛けの方法について、45～54歳の年代より下のすべての年代では「親・家族から教わった」が最も多く、若年層になるほど高い割合となった。次に多かったのが「家庭科の授業等」でこれも若年層になるほど高い割合となっている。若年層では他の年代に比べて「人から教わる機会」に学ぶ傾向だったことから、クリーニング組合ができる取組みとして「出前授業」の機会を増やしていくことが、効果的な利用者啓発であると言える。

なお、中央青年部会では平成29年度の重点事業として、出前授業の実施を利用者啓発の一つの機会として多くの青年部で導入できるよう研究を行っている。平成29年度の各組合での出前授業の実施状況は合計14組合39ヶ所となった（平成30年1月にアンケートを実施、回答のあった組合のみ）。授業の多くは各都道府県の指導センターが実施する「後継者育成支援事業」に組合が協力する形で、組合員が学校を訪問する「出前授業」、または組合員店で生徒が職業体験を行う「インターンシップ」として実施されている。

「出前授業」を通じてクリーニング組合が生徒にアピールできる切り口としては、衣類の取扱いに関する「家庭科」の授業として実施するのか、職業選択の機会である「総合的な学習の時間」の授業として実施するのかによって、生徒に訴える視点は異なる。全ク連では、利用者の洗濯行動の啓発やクリーニング需要の喚起により直接的に関わる「家庭科」の授業がどのように行われているのかを調べた。

小学校・中学校・高等学校の家庭科の教科書を見ると、学習の難易度は異なるが「衣類を着る目的や衣類の役割を考える」「衣類を入手する計画を立てる」「着用した後の洗濯や修繕の方法を学ぶ」といった、衣類の購入から着用を経てメンテナンス、処分するまでのサイクル全体を網羅した構成になっている。

●「家庭科の教科書」より 衣類の取扱いに関する記載（例）

衣類の働きについて

保健衛生上の働き
体を清潔に保つ、暑さ・寒さから保護する

生活活動上の働き
ケガや汚れから保護する、運動をしやすくする

着る

社会生活上の働き
個性を表現する
職業や所属集団を表す
社会的慣習に合わせる

次のような場面ではどのようなことをポイントに衣類を選ぶか考えましょう。
①地域のお祭りに行く時 ②親戚の結婚式に行く時

！ 衣類を着る目的を考えることで、生活の中で衣類が様々な働きをしていることを理解したり、目的に合った装いができるようになることを目標にしています。

衣類の購入・既製服の選び方

組成表示
綿 70%
ポリエステル 30%

取扱い表示
40 △ ⊗ □
あて布使用

原産国表示 日本製

表示者名と連絡先
△△株式会社
□□県○○市△△1234

！ これまでにどのような基準で衣類を購入していたか考えましょう。手持ちの衣類について、入手してよかったことや後悔した経験があれば発表してみましょう。

既製服を選ぶポイントを学びます。特に、サイズや素材、取扱い方法を確認するための表示を正しく読み取ることを目標にしています。